

施設整備の組み合わせ比較と選択判断の視点

第2回専門家会議
資料4

整備方法	パターン	施設	組み合わせの特性検討
一体整備	1か所	施設A メインホール+サブホール+人形劇場	- 複数の機能を持った施設であることから、様々な利用者が集い活動することが想定され、施設周辺の賑わいが創出される可能性がある - 機械室等の共通エリアが最小限になることで、施設保守等のコストは小さくなる - 市有地がないため用地確保の難易度が高い - 管理運営、そのための舞台スタッフを含めた人員体制の確保が容易
分散整備	2か所	① 施設A メインホール+サブホール 施設B 人形劇場	- 施設Aは組み合わせられた施設の利用者が集い活動することが想定され、施設周辺の賑わいが創出される可能性がある。施設Bは他施設との複合化や一体的な整備、周辺施設との連携の工夫をすることで、賑わいの創出ができると考えられる - 施設Aは共通エリアが小さくなるが、施設Bは工夫が必要である - 施設Aは一体整備に準ずる広さが必要となり用地確保の難易度は高い。施設Bは用地確保の難易度が低い - 管理運営の連携を意識しつつ、人員体制の確保が必要となる
		② 施設A メインホール+人形劇場 施設B サブホール	- 施設Aは組み合わせられた施設の利用者が集い活動することが想定され、施設周辺の賑わいが創出される可能性がある。施設Bは他施設との複合化や一体的な整備、周辺施設との連携の工夫をすることで、賑わいの創出ができると考えられる - 施設Aは共通エリアがある程度小さくなるが、施設Bは工夫が必要である - 施設Aは一体整備に準ずる広さが必要となり用地確保の難易度は高い。施設Bは用地確保の難易度が低い - 管理運営の連携を意識しつつ、人員体制の確保が必要となる
		③ 施設A サブホール+人形劇場 施設B メインホール	- 施設Aは組み合わせられた施設の利用者が集い活動することが想定され、施設周辺の賑わいが創出される可能性がある。施設Bは他施設との複合化や一体的な整備、周辺施設との連携の工夫をすることで、賑わいの創出ができると考えられる。 - 施設Aは共通エリアがある程度小さくなるが、施設Bは工夫が必要である - 施設Bは広さが必要となり用地確保の難易度は高い。施設Aについては上記2パターンより難易度が高い - 管理運営の連携を意識しつつ、人員体制の確保が必要となる
	3か所	施設A メインホール 施設B サブホール 施設C 人形劇場	- 施設利用者が集い活動する場所が市内に点在することで、文化活動の広がりが想定される - 他施設との複合化や一体的な整備、他施設との連携の工夫をすることで賑わいの創出ができると考えられる - 用地確保の難易度が上記パターンと比較して低く、整備の柔軟性が最も高いと考えられる - 共通エリアが結果として大きくなる可能性があり、コストを意識した整備工夫が最も必要と考えられる - 整備時期をずらすことで、一時的な経費支出を抑えることができる - 管理運営の連携を意識しつつ、人員体制の確保が最も必要となる



選択判断の視点	判断における考慮ポイント
基本構想の実現	基本理念「みんなが集い、創り、伝える 感動の飯田ひろば」の実現が可能か否か
文化振興、まちづくりへの波及効果	- 他施設との複合化や一体的な整備、周辺施設との連携による効果が期待できるか否か - 施設整備をまちづくり課題の解決につなげることができるか否か
必要な敷地の確保	- 市有地の有効利用が可能性かどうか - 十分な駐車場を確保できるか、または近隣駐車場の有効活用によって駐車場面積の圧縮は可能かどうか
アクセシビリティ	公共交通等による施設へのアクセス性はどうか
施設整備費	- 飯田市の一般財源負担額の圧縮（国の支援財源の導入を考慮）が可能かどうか - 用地取得費、移転補償費を含めて検討
維持管理費等	ライフサイクルコストの視点からの評価はどうか
施設運営	一体的な施設運営体制の構築は可能かどうか
リスク対応	修繕や突発的事由による利用休止の際に市民活動に大きな支障を生じさせない利用調整が可能かどうか

整備候補エリアの選定も考慮しながら、選択判断の視点とポイントに照らして検討し、整備方式と整備候補エリアを絞り込んでいく